

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 5月 16日

事業所名 スポーツとまなびのひろばSAIYO池田校

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	17%	83%	密を避ける。物品の除去。	整理整頓を行い、スペースを確保する
	2 職員の配置数は適切である	100%	0%	人員配置を順守している。	専門職(保育士等)を入れ、十分に配置できるようにする。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	50%	50%	療育を行う場所はできている。入り口は階段のみ	施設内はバリアフリーになっている。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	33%	67%	支援計画作成や療育内容に職員が参加している。	継続して行う。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	83%	17%	真摯に受け止め、改善を図る。	改善点は迅速に対応する。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	HPで公開している。	HPに公開している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	17%	83%	今のところ実施を考えていない。	健全な運営ができるよう検討していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	年間計画に沿って社内研修を実施している。	社内研修・外部研修・オンラインを活用するなど継続して行う。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	専門的なアセスメントシートを活用している。	イケダスを活用している。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	専門的なアセスメントシートを活用している。	客観的にたった評価ができるように取り組む。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	スタッフミーティングで立案している。	プログラムの見直しチームを作り実施する。
適切な支援の提供	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	毎週変更している。	療育の質を向上に繋がる工夫をしていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	日ごと・月ごとに設定している。	日ごとに課題を持ち、スタッフ間で共有して取り組む。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	集団メインで個別課題を提供している。	集団療育を提供しながら、個別課題をしっかりと分け提供する。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	始業前ミーティング、週末ミーティングの実施。	サービス向上に向け、継続して行う。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	適時行っている。	継続して行う。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	活動記録を作成し保管している。	出来る限り、詳しく記録を残す。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	支援計画に沿った内容が提供できるように実施している	支援計画フローチャートの通り実施していく。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	100%	0%	脳トレ・運動・学習と実施している。	事業所に方針に沿ったサービスの提供をする。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児発管が参加している。	適時参加し情報共有する。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	83%	17%	送迎時間・場所の確認を保護者様にお願いしている。	利用者の安全を第一に考え、通所できるように取り組む。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%	該当なし	該当なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0%	100%	該当なし	該当なし
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	17%	83%	該当事例無し	該当事例はないが、今後必要になる事を想定して準備しておく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	33%	67%	研修があれば職員に案内し参加している。	適時案内があれば参加する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%	学校で交流がある。	十分な交流があると判断できる。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%	開催されれば参加している。	積極的に参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳・面談時に詳しくお伝えしている。	保護者の方のニーズに沿って情報共有していく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	33%	67%	今年度も実施無し	コロナがもう少し落ち着けば開催したい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	適時行っている。	継続して行う。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	常に相談できる体制を作っている。	常に保護者様の状況考え、希望があれば対応できるようにする。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	開催できていない。	授業参観などの形で交流の場を作る。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	該当はないが、対応できるようにしている。	苦情対応マニュアルに沿って行う。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	書面やHP、LINEアット等で発信している。	HPやLINEアットを活用し発信する。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	職員にも注意している。	今後も注意し取り組む。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	個別に電話等で意思疎通を図っている。	個別に対応できるように取り組む。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	出来ていない。	開催できるものがあれば取り組みたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	67%	33%	マニュアルはあるが、周知不足である。	保護者様に周知できるように取り組む。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	実施できている。備えはできている。	年間計画に沿って実施する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	法定研修として毎年実施している。	年数回実施し職員に周知徹底できるように取り組む。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	83%	17%	法定研修として毎年実施している。	身体拘束が必要であれば支援計画に記載し保護者様に同意を得る。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	個別に対応している。	提供する際は十分に注意して行う。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	マニュアルで対応している。	細かな事も記載できるような体制を作る。